

# 函高専 課題と収穫

## 各大学チームと対戦



シュートを放つ函高専の小田原主将

「1、2年生は大学生同士と3試合行った函高専の長谷川の試合をやったことがほとんどなかったの、いい経験になった。当たりが強くて、高校とはまったく違う。いい勉強になった」。大学のBチーム

小田原主将、センターの五十嵐の2人を軸に攻め続けた結果だった。さらに1月の道新入大会でベスト4入りした1、2年生も食らいつき、チームの調子は上向いてきた様子。長谷川コーチは「失敗を恐れず、経験させることを大事に戦わせた。一つ一つの動きがよくなっている。常に足を使うことと、適当なプレ―をしないことの2つの課題も挙げ、収穫は十分にあっ

た」と表情は明るかった。新チームを引っ張る小田原主将は「大学生の胸を借りて少しでもチームを強くしたい。3日目もできればいい勝負ができるように頑張りたい」と力を込めた。

# 課題修正へ懸命プレー

## 函高専 最終日で巻き返しを



大学生を相手に奮闘中の函高専はこの日も3試合を行った。長谷川軍司コーチは「デ―を2年ぶりに制覇することが最大の目標。チームの土台を固めるためにもこの時期が重

要となる。選手たちもしっかり

り理解して少しでも食らいつこうと懸命なプレーが続いている。

しかし、思うような動きができず小田原主将(4年)は悔しさをにじませた。「普段できるプレーができないなど、ぼろぼろだった。初日に試合後の話し合いが足りなかったのが大きな原因。最後は少し修正できたけど、20日はもっといい試合をしたい」と反省し、最終日での巻き返しを誓った。

.....  
軽快な動きでパスを回す函高専の五十嵐

### 疲労に耐え奮闘 「3日間、勉強に」

函高専

大会2日目から出場した函高専は大学生の強い当たりとプレッシャー、疲労に耐えながらも奮闘を続けた。

この3日間で計9試合。過酷な戦いにいくつもの課題が挙げられたことが収穫だった。長谷川軍司コーチは「3日間、いい勉強になった。その中で大きな課題は2つある。一つは相手ディフェンスを引

きつけるような速いボール回し。もう一つは体力、フィジカル面の強化。この2つをクリアすれば、目標の全国高専大会制覇に近づくと話す。

第5日からは函大体育館で地元の強豪高などと試合をする予定で、春季大会、支部予選を控える1、2年生を中心としたメンバーで戦う。長谷川コーチは「失敗を恐れず、思い切りプレーして、今後の糧にしてほしい」と期待を寄せた。

### 短期間で 大きく成長

函高専3勝

函高専はこの日、春季大会、支部予選を見据えて1、2年生主体のチームで臨み、函工高、函大有斗高、道内強敵の札幌真栄高、青森商高と5試合を行い、3勝と強さが光った。大会2日目から参加して、大学生と計9試合行った経験が生きたようで、長谷川軍司コーチは「ここまでできるとは思っていなかった。最後まで足を止めず、ディフェンスもよかった」と褒めちぎった。

大学生の当たりの強さやスビードを体感し、過酷な試合を乗り越えたことで、短期間に大きく成長を遂げた。「今日は勝ち続けて自信になった。選手たちは目が輝いている」



るし、気持ちも乗っている。今後の楽しみも増えた」と長谷川コーチ。

22日には全国高校選抜大会道代表の釧路工高と対戦する。長谷川コーチは「油断せず、引き締めていきたい」と話していた。